

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立三潴高等学校 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	福岡県立三潴高等学校 1年生 102名 2年生 143名 3年生 139名 計384名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピックの講演を聞き、オリンピズムの教育的価値(努力の喜び、フェアプレイ、他者への尊敬、卓越性の追求、バランスのとれた身徳知)を生徒たちが考え、2021年の東京オリンピックに興味・関心を抱いたり、今後の生活に活かせるようにする。
5 取組内容	○本校全校生徒384名を対象とし講演及び質疑応答を行った。 (講師) アトランタ・シドニーオリンピック出場 田端健児氏 シドニーオリンピックでの4×400mRの映像等の視聴  (1) 講師本人が出演したシドニーオリンピック4×400mRでバトンを落とす映像を見て、本人がオリンピックをどのように捉えているか考える。

	<p>(2) オリンピックの価値を理解するために映像等を見てイメージを掴む。</p>  <p>【話の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 陸上競技を始めたきっかけから現在に至るまでの経緯。 • 目標を持つ大切さや具体的なポイントを説明。 • オリンピックに出場し、その後の生活で経験したこと。  <p>(3) 講師の話聞いて、興味を持ったことや疑問に思ったこと等を質問する。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○陸上競技という、いわゆる関わりが薄い競技における話だったが、オリンピックということで自分の競技に置き換えて考える事ができた。</p> <p>○本時の目標を9割以上の生徒が達成できた。 (アンケート結果から)</p> <p>○2021年の東京オリンピックへの関心を高める事ができた。 (アンケート結果から)</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○講師本人が出場したオリンピックシドニー大会の競技の様子を観せることでトップアスリートである実感をもたせた。</p> <p>○オリンピックでの失敗についての映像を見ながら話すことでオリンピックの価値についてのイメージをつかませた。</p> <p>○本人が学生時代に実際行っていた取り組みを全校生徒に披露することで具体的なイメージを持たせた。</p> <p>○挫折した時から立ち直った時の体験談を話すことで生徒たちに乗り越えられる勇気を与えさせた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○今回のオリンピック・パラリンピック教育は我々教師が行うよりも、生徒への刺激が大変大きいと感じられ、その効果は予想以上であった。しかし、この一度かぎりでは終わらず継続してこの教育を行っていくことが必要だと考える。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○今回の講演を聞いて、多くの生徒がオリンピックについて興味・関心を持つことができた。アスリートとして「する」だけでなく、「見る」「支える」ことでもオリンピックに関わりたいという生徒もいた。来年度も継続してオリンピック等と呼び、この事業</p>

	が実現できたら、オリンピックへのさらなる普及啓発につながっていくと考える。
--	---------------------------------------

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立三潴高等学校 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	福岡県立三潴高等学校 スポーツ文化コース 1年生 53名 2年生 55名 計108名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (スポーツI) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック陸上教室で「走の基本」を学び、学んだことを生徒同士でアウトプットすることにより、より深く理解をする。また、各競技に共通する「走の基本」を学び、自分の専門種目に生かしたり、オリンピック考案のトレーニングを実践したりすることで、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成につながっていくようにする。
5 取組内容	○スポーツ文化コース1・2年生108名を対象とし「走の基本」のトレーニングを行った。 (講師) オリンピアン 田端健児氏 【3グループに分かれ本時の説明】 

- (1) 前回の授業で男子2グループ、女子1グループに編成し、本時の流れを説明したのち、ウォーミングアップに展開していく。
- (2) サッカーグラウンドを利用し生徒全員でランニング・ストレッチ・体操を行う。
- (3) その後グループ別に分かれ、①「走り」、②「体幹」、③「股関節」の活動内容をローテーションで行う。
- (4) 走り、体幹、股関節トレーニングの目的やポイントを、陸上部生徒がアウトプットし、実際に体験し、自分の走りにつながるよう意識する。

【「走の基本」のトレーニング】

①走り



②体幹



③股関節



	<p>(5) 初めて行う「走の基本」のトレーニングにより、興味・関心を持つことができる。</p>
6 主な成果	<p>○「走の基本」に対する興味・関心の向上、楽しむ心を持つことができ、生徒同士の声掛けなども自然とできるようになった。</p> <p>○陸上部の生徒はインプットしたことをアウトプットすることにより深く理解することができた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○トレーニングのグループ分けの際、「走り」では密集を避けるため、更に3グループに分けスタート地点を3ヶ所にした。自分の走りに応じた課題を考えやすくすることで、より興味・関心を持たせた。</p> <p>○トレーニング後、自分のパフォーマンスにどうつながるか考えさせ、今後の部活動に取り入れやすいよう整理する。</p>
8主な課題等	<p>○今回「走の基本」のトレーニングを実践し、「教える側」と「学ぶ側」の生徒それぞれに個人差が大きく見られた。より良くするためには、このような取り組みを継続して行っていくことが必要である。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○今回のオリンピック考案「走の基本」トレーニング法を実践し、多くの生徒がスポーツに対する興味・関心やスポーツを楽しむ心を持つことができた。今年で3回目となり昨年度より生徒たちは積極性が増し、オリンピックに対する意識や普及啓発につながっていることが実感できた。その理由の一つとして普段の生活や部活動の中で生徒たちの言葉の中から「オリンピック」という言葉を多く耳にするようになった。</p> <p>今年度は東京オリンピックの開催が延期になり、来年度にオリンピックが開催される予定になった。この活動を通して、「オリンピック」の啓発を維持していくことが大切だと考える。来年度もこのような事業が継続されていくとさらに生徒や職員・地域の中で「オリンピック」普及啓発が継続されると考える。</p>